

熊本県言語聴覚士会の デジタルトランスフォーメーション - 取り組みと成果 -

熊本県言語聴覚士会 理事
境良太

本演題の開示すべきCOIは下記の通りです

- WEB事業社 1 社と協業関係にあります

諸言

DX（Digital Transformation）とは？

デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形やスタイルを変える（Transformする）ことである

（引用：厚労省HP「医療DXについて（資料1）」 <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/000992373.pdf>）

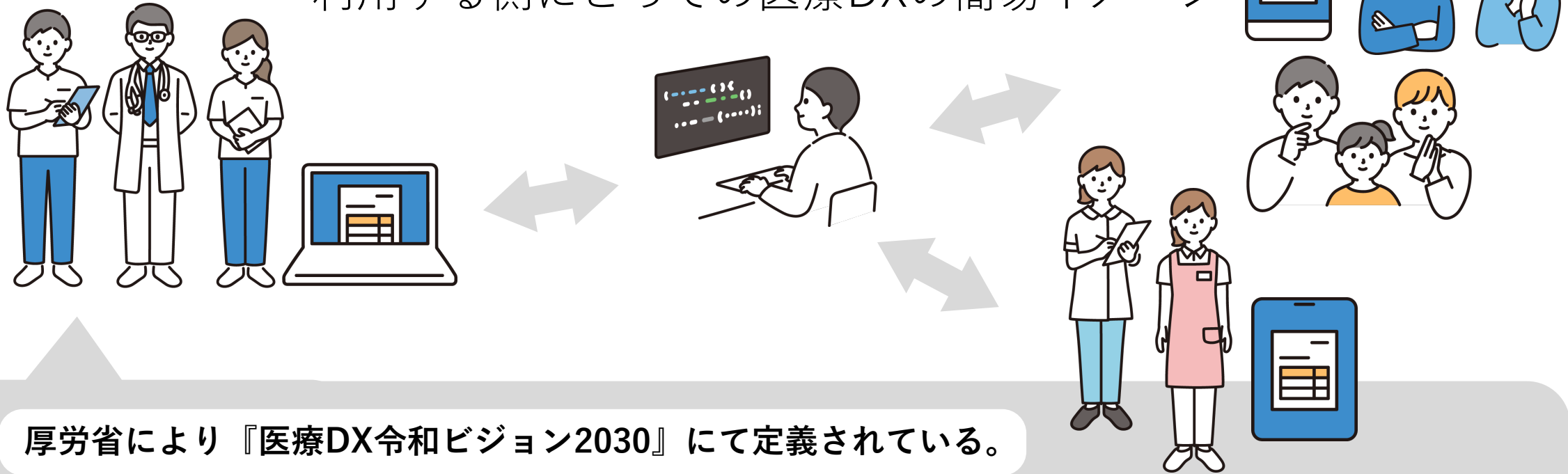
IT化とDX化の違い

IT化は、ツールやシステムの導入を通して、部分的な業務の効率化やコスト削減を目標とする。

DX化は、全体的なシステムや根本的なモデルの変革を目標とする。

医療DXとは？

利用する側にとっての医療DXの簡易イメージ



厚労省により『医療DX令和ビジョン2030』にて定義されている。

医療DXとは、保健・医療・介護の各段階において発生する情報やデータを、全体最適された基盤を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることと定義できる。

(引用：厚労省HP「医療DXについて（資料1）」<https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/000992373.pdf>)

医療職能団体におけるDXとは？

医療職能団体の役割は多い

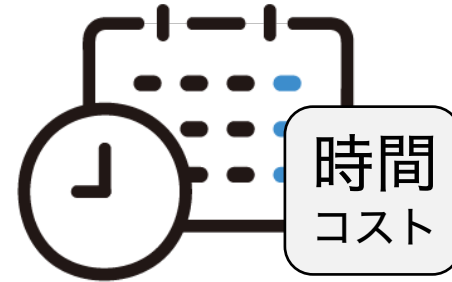
職能に関わる人材育成事業、地域コミュニティとの事業、県・自治体との事業、団体会員の会員管理など、多岐にわたる。



医療職能団体におけるDXとは？

団体が抱える課題も多い

医療職能団体の主な活動財源は、会員費と各種助成金や補助金であり、昨今は会員離れや社会保障費の増大など課題は多い。



医療職能団体におけるDXとは？

課題解決の視点

多岐にわたる業務と課題を、限られた財源の中で解決/達成していくため、その業務や組織を持続可能な状態へ変革する必要がある。



医療職能団体におけるDXとは？

<持続可能な状態への変革を目指す>

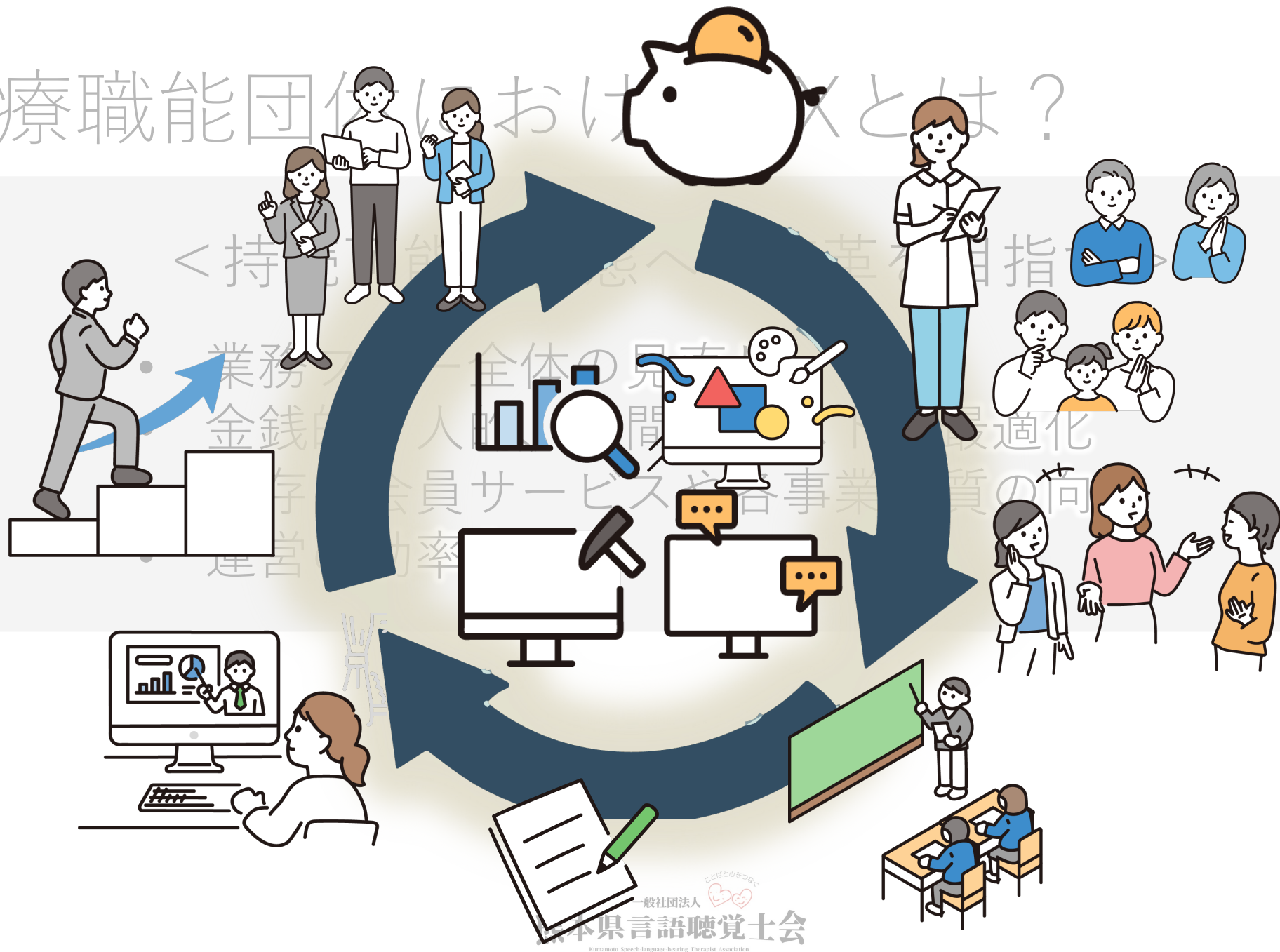
- 業務フロー全体の見直し
- 金銭的、人的、時間的コストの最適化
- 既存の会員サービスや各事業の質の向上
- 運営の効率化

医療職能団体におけるDXとは？

< 持続可能な状態への変革を目指す >



医療職能団体における役割とは？



DXを行うためには？

様々なツールの比較検討

DXをすすめるにあたり、実際には可能なところから検討していくことが多いが、適切なツールを比較検討することが重要であると考えられる。



DXを行うためには？

適切なツールの選択

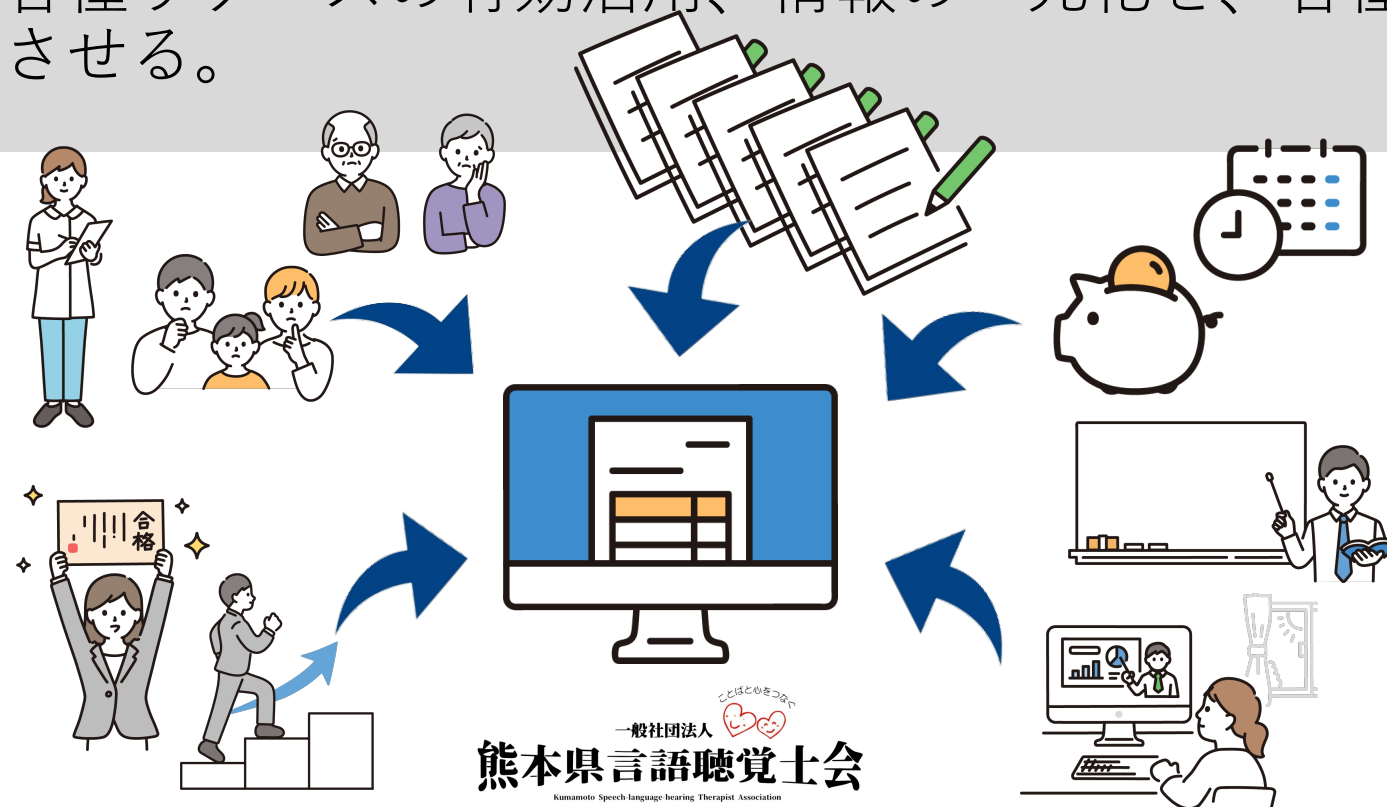
ツールの比較検討には、互いに連携が容易で各種コストを最適化し得るツールを選ぶことが重要と考えている。（例：Google系のアプリ、LINE、zoom、クラウド管理などなど）



DXを行うためには？

DXをすすめる

業務フロー全体の見直しによる、費用対効果の低いボトルネックの特定、重複の排除、各種リソースの有効活用、情報の一元化を、各種ツールを活用して達成させる。



取り組みと成果

ホームページのリニューアル

成果

- 会員や一般ニーズに沿った情報へのアクセス性の向上。
- 運営側がユーザーへ訴求したい情報へのアクセス性の向上。
- 職域のブランディング向上のために、県士会の目的や社会的な役割を広く広報する役割としても活用。

熊本県言語聴覚士のホームページへようこそ。ブックマークの登録をお願い致します。

熊本県言語聴覚士会

一般社団法人
熊本県言語聴覚士会
Kumamoto Speech language-hearing Therapist Association

🏠 ホーム home ➡️ 会員ログイン login 👤 入退会/変更届け/年会費案内 membership ✉️ お問い合わせ contact 🔍



熊本県言語聴覚士会のホームページへようこそ。ブックマークの登録をお願い致します。

ホー

熊本県言語聴覚士会

ことばと心をつなぐ
一般社団法人
熊本県言語聴覚士会
Kumamoto Speech language-hearing Therapist Association

🏠 ホーム
home

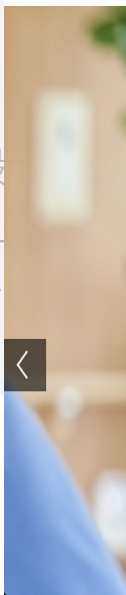
👤 会員ログイン
login

👤 入退会/変更届け/年会費案内
membership

✉ お問い合わせ
contact



- ・ 会員や一般
- ・ 運営側がユ
- ・ 職域のブラ



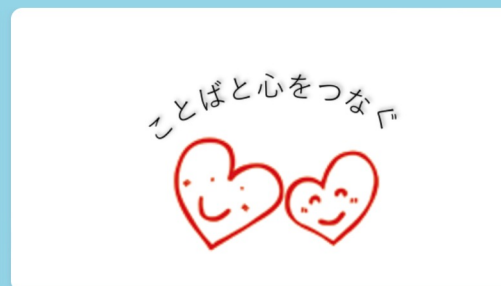
でも活用。

言語聴
コミュニ
食事に障
1997年に

Pick up!



失語症者の意思疎通を支援する事業が全国で始まっています
📅 2023年5月31日



失語症者様の意思疎通支援のための
熊本県言語聴覚士会独自の派遣事業
📅 2022年9月16日



ブロック費が申請制へ移行します
📅 2023年7月19日

ホーム

- ・ 会員や一般
- ・ 運営側がユ
- ・ 職域のブラ

当士会について

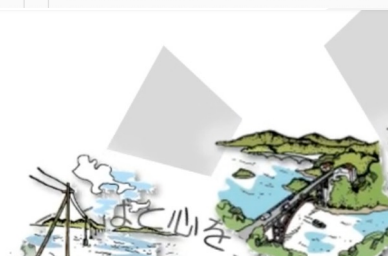
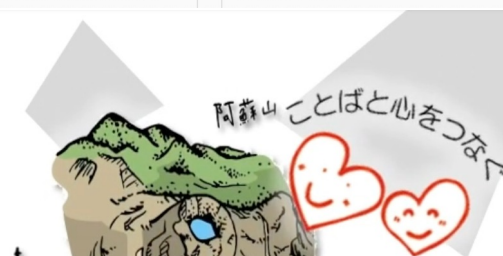
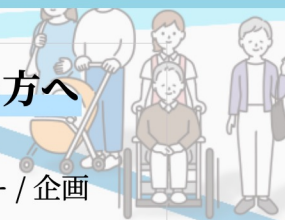
会長挨拶
当士会のご紹介
組織図
熊本県言語聴覚士会定款

会員の方へ

研修/セミナー/企画
学会
求人情報
活動報告

一般の方へ

研修/セミナー/企画
言語聴覚士とは？
言語聴覚士になるには
言語聴覚障害でお悩みの



でも活用。

一般の方へ pick up!

◎ 2023年8月3日 ■ Public

言語聴覚の日：無料オンライン講演会のご案内

◎ 2023年5月26日 ■ Public

失語症者の意思疎通を支援する事業が全国で始まっています

◎ 2022年8月7日 ■ Public

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連

会員の方へ pick up!

◎ 2023年8月10日 ■ Member

キックオフミーティング（意見交換会）開催のご案内

◎ 2023年8月3日 ■ Public

言語聴覚の日：無料オンライン講演会のご案内

◎ 2023年7月12日 ■ NEWS

ブロック費が申請制へ移行します

広報誌

リニューアル予定

◎ 2022年8月7日 ■ Bulletin

KSTNET60号（2023年5月発行）

もっと見る



🔗 [関連サイトへのリンクはこちら](#)

ホー

- ・ 会員や一般
- ・ 運営側がユ
- ・ 職域のブラ

👤 一般の方へ
pick up!

🕒 2023年8月3日 📄 Public

言語聴覚の日：無料オンライン講演会のご案内

🕒 2023年5月26日 📄 Public

失語症者の意思疎通を支援する事業が全国で始まっています

🕒 2022年8月7日 📄 Public

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連

👤 会員の方へ
pick up!

🕒 2023年8月10日 📄 Member

キックオフミーティング（意見交換会）開催のご案内

🕒 2023年8月3日 📄 Public

言語聴覚の日：無料オンライン講演会のご案内

🕒 2023年7月12日 📄 NEWS

ブロック費が申請制へ移行します

📄 広報誌
リニューアル予定

🕒 2022年8月7日 📄 Bulletin

KSTNET60号（2023年5月発行）

もっと見る

🔗 関連サイトへのリンクはこちら

でも活用。



｜ ポリシー ｜ 熊本県言語聴覚士会 定款 ｜

© copyright Kumamoto Speech and Hearing Association

熊本県言語聴覚士会

Kumamoto Speech language-hearing Therapist Association

オンラインでの学会運営

(2023年 第11回九州地区学術集会 熊本大会)

成果

従来の開催のような人員コスト、運営や郵送等の金銭コスト、準備や当日にかかる時間コストを削減でき、財源や人員が限られた中でも必要な費用（講師費用や人件費）、リソース(人員配置やオンデマンド配信など)を確保できた。参加者は場所を問わず学会へアクセスでき、オンデマンド配信による学会後の反復学習を可能にした。

開催終了までのロードマップ、タスクワークフローを具体的に書き出し

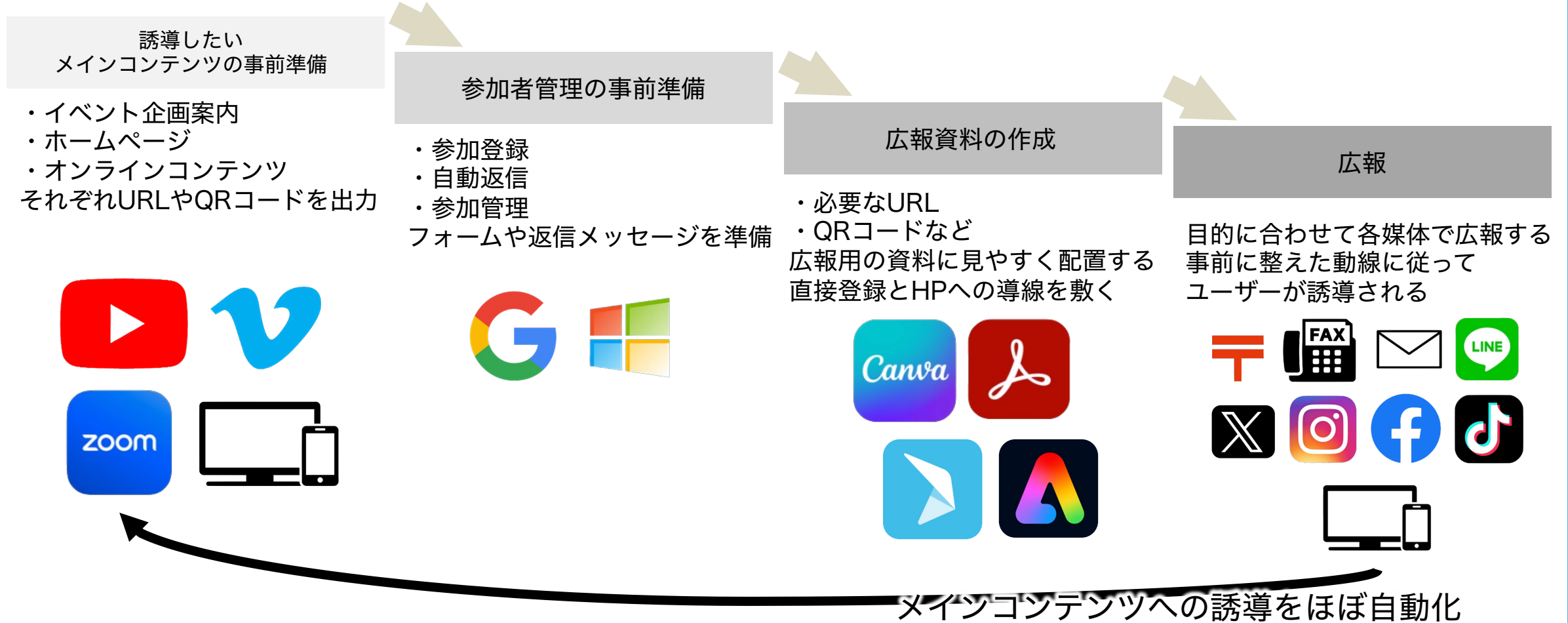
適したツールの選定を行うために機能/料金の比較を実施

実際の運用を想定した予行練習と課題の抽出、解決



コンテンツへの誘導のほぼ自動化

(言語聴覚の日イベントの運営効率化)



その他の取り組み

DX化	得られる効果/期待される成果
印鑑のデジタル化	可能な限りデジタル化した印鑑の使用によるやりとりの時間や郵送代の削減
紙媒体情報にかかる費用の削減	書類や広報誌のデジタル化による印刷代や郵送代の削減
情報の受送信プラットフォーム最適化	・FAX送信の効率化 目的に合わせてFAXを自動で一斉送信できるサービスを活用 ・公式LINEアカウントの活用（今後開始） ユーザーを絞った情報配信やワンクリックでの情報アクセスが可能 HPと連携させて活用し会員ニーズの把握やサービスの提供を実施
入会・退会・変更届の半自動化（今後予定）	会員の登録作業の負担軽減 運営側の管理作業の負担軽減
コンテンツの制作と活用（今後予定）	広報誌や動画などのコンテンツを活用し、会員・非会員向け、一般向けのサービスを充実させ、ニーズの分析やフィードバックに活用
HPへの情報の一元化	会に関連する様々な情報を集約させ、アクセス性の向上をはかる HPの分析結果を、会員サービス等に活用

展望

例年の決まった業務の単純化

会が毎年企画する研修会やセミナーは、その企画、申込方法、広報の情報を一元管理することで、毎年同じルーティンで作業できるようにになると考えている。

そうすると、毎年の決まった業務は単純化でき、人的、時間的、金銭的コストの最適化がすすむ。

次年度には課題を改善することにコストを再分配しやすくなる。

会員サービスや各事業の質の向上と運営の効率化を実現し
持続可能な新たなシステムへの変革をすすめたい

LINE公式アカウントの活用

身近なツールでの情報取得へのニーズが高まっている（当士会調べ）。

LINE公式アカウントを活用することにより、情報へのアクセス性の向上はもちろんのこと、HPとの連携やLINE画面のカスタマイズ、配信対象者の選定機能などを活用することで、会員あるいは運営側の意図に合わせた情報の訴求や、やり取りが可能となる。

各種コストの最適化と
サービスの質の向上に寄与すると考えている

まとめ

今回の発表では、職能団体におけるDXについて述べ、熊本県言語聴覚士会におけるDX化に向けた事例を紹介した。

DX化では、業務フロー全体の見直しによる、費用対効果の低いボトルネックの特定、重複の排除、各種リソースの有効活用、情報の一元化を再検討することが重要であったと考える。

はじめはツールの選定にコストを割くが、業務フローの見直し、改善を繰り返すことで、各種コストの最適化がすすみ、サービスや事業の質の向上、運営の効率化が実現していくと考える。

その結果、持続可能な新たなシステムへの変革が達成され则认为ている。

ご清聴ありがとうございました。
今後とも、当士会の活動への
ご理解とご協力のほど
何卒よろしくお願いいたします。